

がんリハビリテーションチーム

『がんリハチーム』をご紹介します。

がんは、日本人の2人に1人がかかるありふれた病気となりました。がん患者さんの増加と治療の進歩に伴い、がんの治療がひとまず終わった人も、500万人以上となっています。

がん患者さんは、がんの進行や治療の過程で、様々な機能障害が生じ、QOLが低下してしまうこともしばしばです。『がんリハビリテーション』は、がんの患者さんが日常生活の機能を維持・向上することを目的としています。

がんリハビリテーションという教科書には「運動療法」、「栄養ケア」、「補完療法」など様々な項目がならんでいます。「老齡期のせん妄やうつ病」、「緩和的ケアにおける疼痛管理」といった項目もあり、いろいろな視点からのリハビリが記載されています。

私たちのチームは、療法士が多い、という特徴を活かし、術後リハビリや早期離床、退院後の在宅療養支援などに取り組んできました。術後患者さんの安全な回復のため、専門的な視点からプログラムを作成し、看護師さんたちと協力して実施しています。

チームの発足は平成23年で、徐々にメンバーも増え、現在は医師2名、看護師5名、作業療法士3名、理学療法士10名が参加しています。

2019年からは、当院は地域がん診療連携拠点病院に指定され、緩和治療への十分な取り組みが求められる状況となりました。『がんリハ』チームとしても、リハビリの立場から緩和的治療の支援を行っていきたいと考えています。

がんに関わるスタッフで、リハビリに興味のある方や患者さんのQOL管理にお悩みの方は、ご連絡ください。